ベトナム医療チャリティー 30 周年

ベトナムの朝は早い。6時にカーテンを開けると、人々が自転車で仕事に向かっている。

こちらも急いで 6:30 朝食の為に身支度し、レストランに。 ビュッフェ形式でくつろいだ身なりのベトナム人観光客 の中に、一人背広ジャケット姿の老婦人一。 さっそく親 切なマスターが付きっきりのお世話と楽しませる会話。 あずき入りもち米飯、ベトナムスープ、スクランブルエッ グ、煮野菜 に舌つづみ。 やはりこの国では食欲が 尽きない。 まだ食べられそうなので クロワッサンを ロール式オーブントースターに入れ おいしそうなスラ



イスチーズを添える。トースターからパンが転がり出るのがおもしろいと若いメンバーが話す。 7:15 待合せをフロント前で。

3 日間連日の接待役に奮闘中のフォン医師が少し遅れる。 しかし、彼女の機転でダナン医療大学に間に合う。 立派な新設の 4100 人の医・歯・薬・検査・看護 の学生たち。今日は試験日なのに、遅刻の学生も三々五々。 貧困学生への奨学金を渡し、校内案内を丁寧にお断りして、写真だけを撮る。 彼らの朝の仕事を邪魔しない様に タクシーを呼ぶ。 しかし機転のきくフォン医師が 徒歩数分の良心的かつ美味しい土産物菓子店に案内。

昨日のマーブルマウンテン小旅行も 一日数回のベトナム食も フレッシュココナツジュースも 砂糖なしの豆菓子も、フォン医師の心のこもったもてなしを受ける。 何回食べても ベトナム 食は直ぐにお腹が空く。

こちらの若い医学生が 現地の医学生たちと、交流する許可が降りたので、早速行かせ、私はホテルへ一。

眼の前を30年間の思い出を乗せて ハン・リバーが流れている。

渡し船は昔のままでを老齢女性が漕いでいる。

高層ビルが増えた この中部ベトナムの都市でも、チャイナ ビーチ への道端に住む人々の暮らしは余り変わっていない。 男は道端で時間を潰し、女はせっせと手で洗濯。 干しながら



背中に子供をあやしている。

私にとって ベトナム中部のひなびた都市は「帰る」べき空間で、初めての雨天も苦にならない。 年中美しい花が咲き、人々が温かい、食べ物が美味しい。

30年、川は何事もなかったかのように 流れている。